

養殖部

一、海綿養殖試驗

本年度ニ於ケル本試驗ハ専ラ種苗ノ増殖ト養殖價值ノ向上ニ重キヲ置キ久米島及慶良間島内ニ於テ夫々左記ノ如ク施行シタリ。

一、久米島ニ於ケル養殖試驗

施行期日

自昭和十年六月二十一日
至全 二十七日

及

自昭和十年十月十五日
至全 二十一日

施行場所

島尻郡具志川村宇島島地先（從來ノ増殖場ニツキ狀況省畧）

施行方法並數量

種別	設備數	單位數量	養殖總數	備考
筏式垂下法	二台	五〇個	一、一〇〇	一台四坪
簡易垂下法	一台	六〇個	六〇〇	所要面積九坪
三角盤利用垂下法	六六個	二乃至三個	二、三〇〇	内一、八三〇ハ十月垂下
三角盤結付沈下法	五〇個	三個	一、五〇〇	十月施行

試驗施行方法

一、筏式垂下法

筏ノ材料ハ孟宗竹徑一〇糎内外長約四米ノモノニ本合セトシ正方形ノ外枠ヲ製作シ之ニ縱横各四本ヲ格子型ニ組合セ十二番線亞鉛引鐵線ヲ以テ結縛シテ番線亞鉛引鐵線ニヨリ四隅ヲ石礎ニ繋留シタリ。

而シテ之ニ使用シタル種苗ハ約四種立方大トシテアルミニウム線ヲ貫通シ鎖狀ニ連結シテ一連トシ一連ハ種苗八個トシテ各個ノ間隔ヲ十糎内外ニ保タ

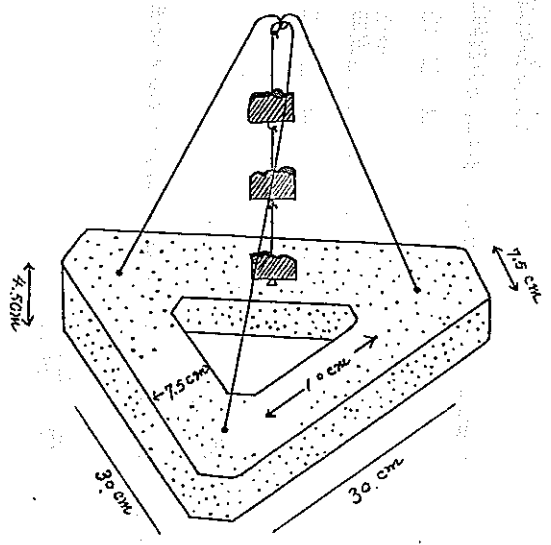
二、簡易垂下法

シメ各連ハ筏ノ縦材ニ沿ヒテ棕櫚繩ヲ張り之ニ垂下シタルモノニシテ筏一台ニツキ七十連五百六十個ノ海綿切片ヲ垂下シタリ。
材料ハ松丸太長サ二米モノ十六本ヲ以テ距離間隔二米トシテ九坪ノ海面ニ杭打シ棕櫚繩ヲ干潮線ニ張り筏式ニ同様ノ方法ヲ以テ一連四個乃至六個ノ海綿切片六百三十個ヲ垂下シタリ。

三、三角盤利用垂下法

筏式垂下法ハ容易ニ波浪ノ被害ヲ受クルノ欠點アルヲ以テ之方短所ヲ補ヒ利用海面ノ増大ヲ期シ本方法ヲ施行シタルモノニシテ次ノ如ク從來使用シタル「コンクリート」製三角盤二十番線亞鉛引鐵線ヲ以テ高約四ト樞ノ三脚型垂下支柱ヲ立テ之ニ海綿切片三個ヲ筏式方法ニ倣ヒ鎖狀ニ連結垂下シ海底ニ沈下配列シタリ。

三角盤利用垂下法略圖



四、三角盤結付沈下法

本方法ハ從來施行シタルモノニシテ海綿養殖方法トシテハ生産品ノ商品價値ニ於テ劣ル處アルモ諸種ノ被害ニ對シ比較的安全ナルヲ以テ種苗増殖ノ目的ヲ以テ施行シタリ
試驗經過成績

一、筏式垂下法

施行後一時順調ナル成育ヲ見タルモ七月下旬ニ至リ颱風ノ影響ヲ蒙リ大半脱落ヲ來シ尙脱落ヲ免カレタルモノモ其ノ後斃死ヲ見ルニ至リ成績不良ニ終リタルガ本方法ニ於テハ波浪ノ衝激ハ極メテ微妙ナル關係ニアルモノノ如シ

二、簡易垂下法

筏式全様颱風ノ被害アリタルモ地點比較的好條件ニ恵マレタルヲ以テ僅少ノ脱落ヲ見タルニ過ギズ其ノ後順調ナル成育ヲ來シ風波ノ影響比較的小キ海區ニ於テハ經濟的ニ有利ナル方法タルヲ認メタリ

三、三角盤利用垂下法

本方法ハ垂下式ナル點ニ於テ前記ノ方法ニ異ナラザルモ海面ノ下層ヲ利用スルモノナルヲ以テ風波ノ被害比較的小シテ筏式垂下法ト同一地點ナルニ拘ラズ遙ニ好成績ヲ納メ豫期ノ目的ヲ達成シ得タリ

四、三角盤結付沈下法

從來施行シタルモノニシテ前記各種ノ方法ニ於ケル被害ヲ見ズ順調ナル成育ヲ來シ好成績ヲ納メタリ

一、慶良間島内ニ於ケル移殖試験

施行期日

自昭和十年十二月十六日
至全 二十四日

施行場所

移殖地ハ慶良間島内座間味村安護ノ浦灣内東側ニシテ通稱大濱ノ南方灣口ニ近ク海底ハ砂質ニ造礁珊瑚散在シ水深千潮時三米潮流比較的緩漫ナリ
運搬經過

種海綿ハ十二月二十日及二十一日ノ兩日ニ亘リ久米島ニ於テ採取シタル養殖海綿三百個及天然海綿約百個ニシテ之ヲ漁船(約十五噸三十馬力)ノ活魚船(横約一五二種縦約一八二種水深約九〇種通水孔二ヶ所)ニ收容二十一日午後一時ヨリ約五時間ヲ以テ移殖地タル安護ノ浦ニ運搬シタルモノナルガ到着ノ上ハ直ニ「アルミニウム」線ヲ以テ貫通シ海中ニ一時放置シ翌日之ガ經過ヲ觀察シタルニ天然海綿ノ約三割ハ斃死ノ状態ニアリタルモ養殖海綿ハ何等ノ異狀ヲ認メザリキ

而シテ天然海綿ノ斃死セルハ運搬上ノ障害ニヨルモノトハ認め難ク採取ノ際重壓ヲ加ヘタルニ起因スルモノト如シ
施行方法並數量

種別	設備數	單位數量	養殖總數	備考
筏式垂下法	一台	九六〇個	九六〇	
三角盤利用垂下法	二七三個	二乃至三個	七三六	
三角盤結付沈下法	二五〇個	三個	七五〇	

試験經過成績

本試験ノ目的ハ灣内ノ生産的利用ト海綿種苗ノ増殖ニアルヲ以テ前項ノ試験ヲ施行シタルモノナルガ之ガ經過ニツキ調査ノ結果ハ筏式垂下法ニヨルモノハ順調ナル成育ヲ遂ゲタルモ三角盤ニヨルモノハ何レモ殆ンド發育ヲ見ズ斃死ヲ來シタリ之ガ原因ト認めベキ事由ナキニシモアラザルモ施行後未ダ半歲ヲ經ズ更ニ調査研究ヲ俟ツテ他日發表セントス